

キリストは馬小屋の中で生まれられたと聖書のどこにも書かれていません。「飼い葉桶に寝かせた」(7節)とだけ書かれています。2000年前のユダヤでは70年前の日本の田舎と同じで、家畜は大事な財産だから家の中で飼っていたようです。マタイ2:11には「家に入ってみると、幼子は母マリアと共におられた」と書かれています。お産は出血を伴いますので、居間ではなく、家畜コーナーでなされました。これが16節の「急いで行って」の理由なのです。

2000年前のユダヤでも、家畜は人々の貴重な財産で、朝一番にエサをやり、自分たちの食事の前に世話をするのが常であったと思われます。ということは、日の出から1時間もすれば、飼い葉桶は家畜の餌が入れられるところになって、生まれて来た赤ちゃんはその場を明け渡さなければなりませんので「布にくるまって飼い葉桶の中に寝ている乳飲み子」を捜すためには日の出から1時間程の余裕しかありませんでした。「羊飼いたちは急いで行って探し当てた」と16節に書かれているのはそのことです。

マタイによる福音書では「メシアはどこに生まれることになっているのか」との質問に「ユダヤのベツレヘムです」とミカ書5:1の言葉が紹介されましたが、誰も出かけて行きませんでした。東の国から来た星占いの学者達だけが出かけて行って、家の中に入って幼子と母マリアとを見つけ、ひれ伏して礼拝したと書かれています。ルカによる福音書は、羊飼いたちが急いでベツレヘムの町に走って行って、飼い葉桶に寝かされている幼子を見つけ、「神をあがめ、賛美しながら帰って行った」と書かれています。共通しているのは、行動に移し、出かけて行った者だけが幼子イエスに会い、礼拝することが出来たということです。

今朝、クリスマスの聖誕日礼拝を守っても、礼拝堂から一歩外に出れば入って来た時と何も変わらないような現実が広がっています。しかし、私達は何も変わらない現実に戻って行くのではなく、神様が一人子を送って下さったほどに愛しておられるこの世界に帰っていくのです。羊飼いや達喜んで野原の羊たちの所に帰って行ったように、私たちもこれまで問題だらけだと思っていた現実にインマヌエル「神、我らと共にいます」と喜びの歌を歌いつつ引き返して行きましょう。神様が共にいて下さって、私達を支え助けて下さる現実だと信じて帰っていくのです。そして、この世界に平和が訪れるように、希望を持って祈り、自分に出来ることを行動に移しましょう。